

Press Conference  
in IGAS 2015  
千葉大学工学部  
画像工学同窓会

千葉大学工学部  
画像系学科  
百周年記念事業



印刷から出発した画像系学科は今年創立100周年の記念すべき年を迎える。

さらに湯本好英氏は、創設時代の時代背景に触れ、「大正初期、日本にはまだ写真技術や製版技術を教える場がなく、銀行券を印刷するときにも諸外国から印刷技術はじめインキ、紙なども輸入に頼っていた時代。当然、偽造防止の技術も確立して

いるわけではなく、国をあげて印刷関連技術の教育の確立が望まれていた。こうしたなかで、大正3年、東京・上野に所在する東京美術学校、現在の東京藝術大学に写真学科、印刷学

科が創設されたのが始まり。その後、現在の東京工業大学が所在する東京・田町の東京高等工芸学校に移管、その後、空襲で千葉県・松戸に引越し、終戦

後、新生千葉大学が創設されるときに校舎は松戸に所在したまま、工学部を創設、そこに移管

した。その後、西千葉に日本陸軍が騎兵隊を養育する場としていた敷地跡に千葉大学が移設された。現在、この西千葉に校舎

があるが、千葉大学工学部は数年後に百周年を迎える。千葉大

学工学部の最大の特徴は、写真・印刷・工業デザイン・建築デザインの卒業生が、現在の日本の基幹産業の基礎を築いたといっても過言ではないところにある。たとえばデジタルカメラの基礎技術は画像技術であり、パソコンやスマホの液晶画面も画像技術の応用であり、これら技術に関しては、現在、日本、台湾、中国、韓国が世界市場を

席巻している」と語った。

「当同窓会のメンバーは現在もメイド・イン・ジャパンの画像技術を世界に向け発信していると自負している」と結んだ。

続いて、千葉大学工学部画像工学同窓会幹事の郡司秀明氏から、この事業を推進する原動力として機能すべく、バックアップしていくとし、

①創設百周年記念式典と祝賀会を2016年10月15日に西千葉キャンパスで開催する。②記念誌『千葉大学工学部画像百周年記念未来への画像』（仮称）の発行。③画像集『千葉大学工学部画像百周年記念画像集』（仮称）の発行。④イメージング教育ラボ（画像系学科独自の展示館）の整備と維持基金の創設（印刷実験工場をリニューアルして設置する計画）。⑤画像系学科画像教育事業の支援。等を行うとし、さらに画像工学同窓会および画像系学科関係者各位に、①e-mailアドレスの登録、②記念誌掲載用の原稿、写真の寄稿、③記念画像集への出品、④記念式典と祝賀会への参加、⑤寄付など――の支援を呼びかけた。

千葉大学工学部画像工学同窓会会長の湯本好英氏は、9月14日午後2時から、東京ビッグサイト東2ホール商談室で、千葉大学工学部画像系学科百周年記念事業についての会見を行った。会見では、千葉大学工学部画像工学同窓会顧問の五百旗頭忠男氏が司会進行を行い、湯本好英会長はまず百周年の経緯を説明した。

1949年（昭和24）に千葉大学工学部（現工学部）と改称された後、1952年（昭和27）年には工業短期大学の写真科と印刷科が設置され、その後、1976年（昭和51）工業短期大学の工学部特設課程への改組に伴い、両学科は同課程「画像工学応用工学専攻」となった。画像関連の大学院は1969年（昭和44）に修士課程、1986年（昭和61）に博士課程が設置され、その後、現在の融合科学研究科に改組された。2004年（平成16）からは、国立千葉大学が独立行政法人化され、国立大学法人千葉大学として、さらなる発展を続ける。幾多の変遷をたどり、写真・



会見の模様（左から郡司幹事、湯本会長、五百旗頭顧問）